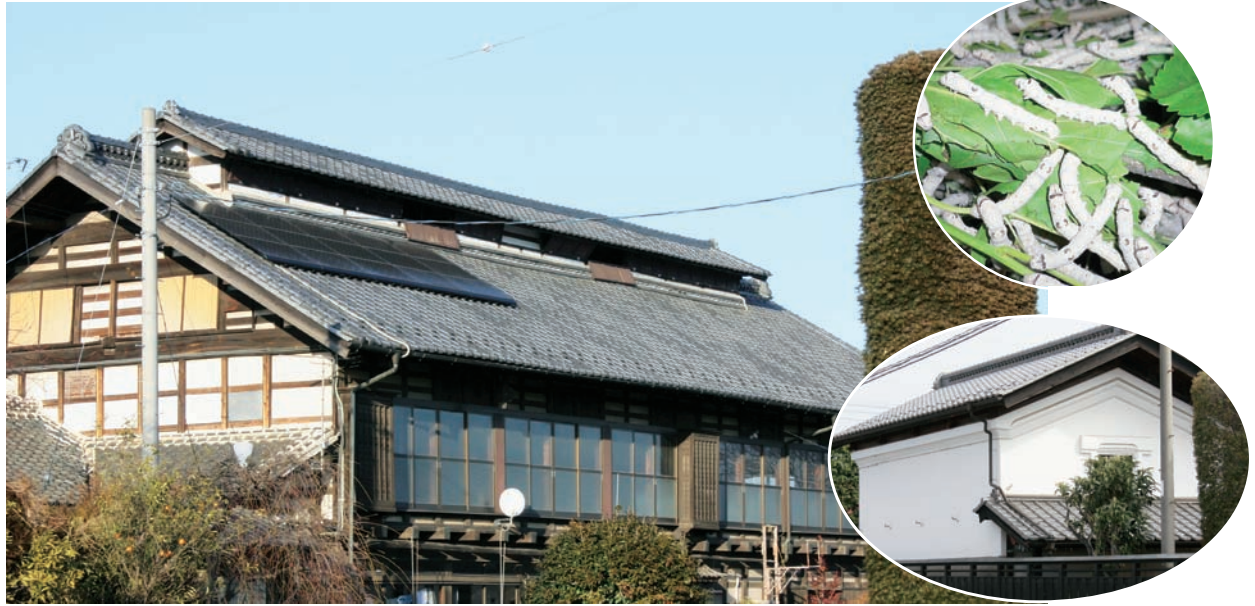


# ふるさと再発見⑧



かつての養蚕県群馬を象徴する養蚕飼育兼用住宅が、大久保宿の街道沿いには現在も多く見られます。

換気のための天窗を有する<sup>やぐら</sup>檜構造の三階建て大型住宅ですが、蚕の飼育優先の構造であり、その多くは明治末期に建築が始まりました。

その養蚕農家には白壁の蔵も併設されていますが、水田の少なかった大久保地域ですので、米の貯蔵よりも繭の貯蔵に使われたのでしょうか。

もう一つの特徴は「<sup>かし</sup>檜ぐね」です。上州の空っ風を防ぐためと、蚕の飼育で火を多く使うため、火災の類焼を防ぐ目的もあったと聞きます。

蚕の飼育法の改良・普及を讃える竹

## 「健在！100年住宅群」

内邦造翁の石碑を三宮神社の境内で見ることができますが、蚕の飼育法の改良から大型住宅が普及したのです。

町内の「100年住宅群」が、当時の養蚕業に懸ける農民の心意気と繁栄の証を今も見せてくれていますが、その繁栄を支えたのはもちろん農家の婦人たちでした。

古老の「昔は二階で米を獲った！」という養蚕業隆盛期を懐かしむ言葉が印象に残りました。

参考文献  
日本近代建築史 大田 徹  
「群馬県吉岡町に現存する養蚕農家の繭保管蔵について」

### 編集後記

年明けから寒く、雪も何回か降った季節が過ぎ、足早に春が訪れました。政権が変わり、景気も上向いてきたと感じます。

3月定例会は、本年度予算を審議する重要な予算議会です。予算決算特別委員会では、議員全員により3日間に行われ、慎重に審議が行われました。新議員も2度目の予算審議となり、熱心に執行側に説明を求めました。今回の広報は主にこれらの審議の結果をお伝えしました。

なお、全国町村議会広報コンクールで4年連続の入賞となりました。これからも委員一丸となつてよりよい広報紙づくりに励みますので、皆さまのご愛読をお願いすると共に、ご意見をお寄せくだされば幸いです。

(平形 薫)

### 編集委員

- 委員長 神宮 隆
- 副委員長 平形 薫
- 委員 宇都宮 敬三
- 委員 岩崎 信幸
- 委員 金谷 重男
- 委員 飯島 衛